

# 令和5年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 本城 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

##### 教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 生徒質問紙調査

##### 生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

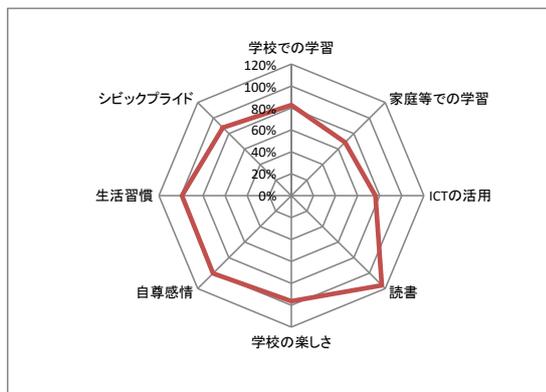
#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

| 本年度の結果 | 国語    |       | 数学    |       | 英語    |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市     | 10.3  | 69    | 7.3   | 49    | 6.8   | 40    |
| 全国     | 10.5  | 70    | 7.6   | 51    | 7.7   | 45    |

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

|    |             |  |                       |
|----|-------------|--|-----------------------|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | 思考力・判断力・表現力を問う問題について、書くこと、読むことの問題では、全国平均正答率を下回っている。話すこと、聞くことの問題では、全国平均に近い正答率である。 | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|    | よくできた問題     | 情報の扱い方に関する事項において、正答率は高い。(全国平均正答率を上回っている)   |                       |
|    | 努力が必要な問題    | 言葉の特徴や使い方に関する事項において、正答率は低い。  |                       |
| 数学 | 全体的な傾向や特徴など | 知識・技能を問う問題については、全国平均正答率を上回っている。思考・判断・表現を問う問題については、全国平均正答率を下回っている。                | 全国平均正答率との比較<br>上回っている |
|    | よくできた問題     | データの活用、数と式の領域において、正答率は高い。(全国平均正答率を上回っている。)                                       |                       |
|    | 努力が必要な問題    | 図形、関数の領域において、正答率は低い。   |                       |
| 英語 | 全体的な傾向や特徴など | すべての領域、観点において全国平均正答率を下回っている。   | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
|    | よくできた問題     | 他領域と比べ、聞くこと、読むことの領域において、正答率は高い。  |                       |
|    | 努力が必要な問題    | 話すこと、書くことの領域において、正答率は低い。   |                       |

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



| 質問紙調査の結果分析   |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書に関する項目は全国平均を上回っている。読書好きで、読書により人生が豊かになっていると感じている生徒が多い。</li> <li>・ICTの活用に関して、全般的に低い数字である。朝自習以外の授業の時間においても、効果的にICTを活用していく必要がある。</li> <li>・普段の家庭学習の時間については全国平均と比べて下回っている。平日、土日ともに1日に1時間以上勉強する生徒の割合は50%未満であることがわかった。</li> </ul> |

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

・毎朝のドリルアプリ（ICT）を使用した朝自習の取り組みを今後も継続して取り組んでいく。特に数学科については週2回行う。（国語・英語は週1回、理科・社会は隔週）  
 ・各学期ごとに学力コンクール（漢字・計算・英単語）を実施し、基礎学力の定着を図る。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

・学期末の保護者会、通信などで、家庭学習の大切さを伝える。  
 ・携帯電話・スマートフォンの使用について、家庭内でルールを決めるなど、使用のあり方について啓発していく。